

令和4年1月4日

年頭所感

社会医療法人青雲会 理事長 川井田 浩

青雲会は社会貢献のための組織である

昨年はコロナに明け、コロナに暮れた1年でしたが、年末にはオミクロン株という変異株が出現し、今年もコロナの終息は混沌としています。昨年の3月頃まではコロナについて殆ど正確な情報が無く、マスコミでは芸能人の感染死が大々的に取り上げられ、社会に混乱や恐怖を招いている最中^{さなか}、青雲会はコロナ対応協力病院として、いの一番に手を挙げました。

「先んずれば人を制す」と言いますが、青雲会が手を挙げた事で、県内の医療機関も追随したという事を後^{のち}に知りました。

個々人が自己実現に努力し 皆で学ぶ組織 教える組織を作ろう

コロナ対応病院として、検査・画像診断・入院という一連の流れを構築し、全て無知であったコロナという疾患に精通し、今では島内院長、川井田善太郎医師は、特別講演が出来るほどの知識を蓄積している様です。

「やったから知った。やらなかったら何も知らなかった」という事です。何事も挑戦しなければ何も生まれないわけです。

いろんな障害があっても、それを糧にして明るく笑いのある職場にしよう

人生もそうですが、組織でも失敗や紛争は絶えません。その時、逃げたり避けたりしたら、同じ事をまた繰り返す事になるでしょう。今までの積み重ねが無^きに帰さないよう、素早く改善し、しっかり受け止め、全てを糧に、ゆるぎのない明るい職場作りをしましょう。

人生に於て 優柔不断は最悪の選択

コロナ対応をする事は、当時の社会情勢では青雲会としては、相当な減収および最悪の場合は倒産の覚悟が必要でしたが、「**青雲会の存在価値は、この時にこそある**」との信念で、コロナ対応病院として手挙げをしたわけです。ところが予期せぬことにコロナ対応医療機関へは国の補助金が出ることになり、減収を免れ、あまつさえコロナ対応のためのCTを含めた沢山の医療機器購入の補助金まで出ました。「**天は自ずから助くる者を助く**」の言葉を思い出します。

補助金申請には、まずどんな補助金があるのかを調べ、たくさんの資料作成が必要です。これは畠中総務部長が休日返上で、働き方改革による規制のなかで、邁進してくれたお陰です。立派な総務部長です。

多く笑うものは 幸福（しあわせ）である。

閉塞感漂う世の中ですが、先日、当院口腔外科で治療を受けた際、藤崎歯科衛生士が、松尾看護師に「何々を持ってきていただけませんか」と頼んだところ、松尾看護師が「かしこまりました」と年齢、職種に関係なく極く自然に発した言葉に、私は感動し、素晴らしい職場であると感じ入りました。職員同士でも丁寧な言葉を使い、皆で仲良く、さらに明るい職場環境を作りたいものです。

今年一年大いに笑って 幸福（しあわせ）を味わいましょう。

令和四年 総合目標

青雲会は社会貢献の為の組織である

個々人が自己実現に努力し

皆で学ぶ組織 教える組織を作ろう

いろんな障害があってもそれを糧にし

明るく笑いのある職場にしよう

人生に於いて 優柔不断は最悪の選択であり

多く笑うものは (しあわせ) 幸福である



社会医療法人青雲会

以上